

グリーンな栽培体系への転換を目指しています ～彦岐市スマート農業推進協議会の活動成果紹介～

お問合せ先
農業振興普及課
0920-45-3038

○彦岐市スマート農業推進協議会で実演・実証を行いました！

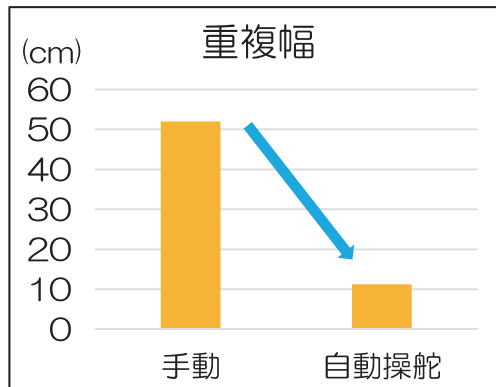
令和3年5月に国が策定した『みどりの食料システム戦略』では「高い生産性と両立する持続的生産体系への転換」を掲げており、「環境にやさしい栽培技術」と「省力化に資する技術」を組み合わせたグリーンな栽培体系（例：重複作業や作業漏れを防止できる自動操舵トラクターによる燃料使用量抑制及び省力化など）への転換が求められています。

今年度は彦岐市内の生産者・集落営農法人と協力し、スマート農業等を活用した環境負荷軽減と省力化の先端技術を組み入れた実証試験を行い、水田農業及びアスパラガス、飼料作物のグリーンな栽培体系の構築について検討しましたので、その成果の一部をご紹介します。

水田農業



代かき



【結果】

重複作業が大幅に減少
⇒作業効率が向上
⇒ムダを省くことで、
燃料使用量を抑制

※自動操舵は重複幅10cmに調整、正確な作業可能。

自動操舵（直進アシスト）トラクター

アスパラガス



【結果】

かん水作業時間
98%削減！

タイマー式自動灌水装置

フィルム内に遮熱物質を練り込むことにより
温度上昇につながる近赤外線をカットします。



【結果】

日中最高温度が
5度低下！

光散乱フィルム

飼料作物(いもち病耐性品種 極早生ヤヨイワセ)



ドローンによるいもち病耐性
品種ヤヨイワセ立毛播種



稲収穫後の生育状況
(12月下旬)

【課題】

・排水不良圃場が多く、作業時間が限られ、作付け時期が偏っている。

【結果（途中経過）】

稲収穫前（立毛状態）に
ドローンでヤヨイワセの播種
（9月下旬,10月上旬）
⇒トラクターが入れない圃場への
適期播種可能。作付け分散
⇒トラクターによる耕起省略
労力、燃料使用量、CO₂削減